

【エクアドル内政・外交：2008年11月】

1. 概要

- 11月 8日 レベンタドール火山の噴火。
- 11月11日 アンデス共同体、欧州連合との協議(当国及びボリビアは欠席)。
- 11月16日 サルバドル外務大臣、インド公式訪問。
- 11月18日・19日 サルバドル外務大臣、イスラエルを公式訪問。
- 11月22日・23日 アジア太平洋経済協力(APEC)首脳会合(於 ヘル)。
- 11月24日 エスピノサ海軍総司令官、コリア大統領に辞表提出。
サルバドル外務大臣が米国と二国間協議。
- 11月26日 コリア大統領、米州ポリバル代替構想(ALBA)首脳会合(於 ベネズエラ)に
オブザーバーとして出席。
- 11月26日・27日 ラヴロフ露外務大臣、当国公式訪問。
- 11月27日 コリア大統領、Salehi 在エクアドル・イラン通商事務所代表と会談。

2. 内政

(1)コリア現大統領への国民支持率

1日～3日に亘り、当国世論調査会社マーケット(Market)社が、ピチンチャ県及びグアヤス県において640名の有権者を対象に実施したコリア大統領支持等に関し世論調査を行った。

(a)コリア大統領支持率

非常に素晴らしい	多少素晴らしい	多少不愉快	非常に不愉快
11.07%	44.51%	42.92%	1.50%

(b)コリア大統領信頼率

信頼する	信頼しない
52.67%	47.33%

(c)コリア大統領の職務評価

優秀	良好	悪い	最低
13.14%	43.24%	41.07%	2.56%

(2)総選挙までの日程

18日、当国国家選挙審議会(CNE)は、総選挙(大統領・副大統領、アンデス議会議員、国会議員、県知事、市長、市議会議員、町議会議員の計5,993名を選出)までの日程を公表した。

- 2008年11月23日(日):総選挙公示
- 2009年1月5日(月):候補者登録開始
- 2009年2月5日(木):候補者登録終了
- 2009年3月10日(火):総選挙キャンペーン開始
- 2009年4月23日(木):総選挙キャンペーン終了
- 2009年4月26日(日):総選挙
- 2009年5月13日(水):大統領選挙決選投票キャンペーン開始
- 2009年6月11日(木):大統領選挙決選投票キャンペーン終了
- 2009年6月14日(日):大統領選挙決選投票

(3)人事:海軍総司令官の辞表提出

24日、エスピノサ海軍総司令官は、ポンセ(Javier Ponce)国防大臣と、エスメラルダ県に於

けるコロンビア国境防衛に関し意見の相違があるとし、コリア大統領に辞表を提出した。現在、コリア大統領は本件に関し決断を未だ下しておらず、同大統領は同総司令官に対し少し時間を置いて考えるよう、ベネズエラ訪問から帰国後に決断すると述べた。本件に関し、コリア大統領は「同総司令官が辞表を提出したことは非常に残念である。彼は誠実でプロフェッショナルであり、いつも政府をバックアップしてくれ頼りにしていた」と語った。エスピノサ総司令官は本年1月21日に現職に任命され、4月10日コリア大統領により承認された。

(4) 治安情勢:レベンタドール火山の噴火

8日、本年7月より活動が活発化していたレベンタドール火山が噴火した。同火山は、2002年11月3日に大規模噴火したキト市東約90キロに位置する標高3562メートルの火山である。噴火後、火山灰は風向で南西に移動。キト市所在のマリスカル・スクレ国際空港は9日、10時45分から13時45分まで3時間予防的措置として空港を閉鎖した。これにより国際線21便、国内線22便が欠航となり、約500人の足に影響を及ぼした。また、ピチンチャ県のカヤンベ、タバクンドなどで少量の降灰が確認された。

国立工科大学地球物理学研究所のウーゴ・イエペス所長は、鳴動を伴う火山性地震の活発化はマグマの上昇を意味するが、現在の同火山活動はまだ大規模噴火発生のレベルには達しておらず危険度も低いと報告している。

3. 外交

(1) 米州ポリバル代替構想(ALBA)

26日、コリア大統領は、米州ポリバル代替構想(ALBA)首脳会合にオブザーバーとして出席した。同会合にはボリビア、ニカラグア、ホンジュラス、ドミニカ、キューバの各国首脳が出席した。上記首脳会合に於いて、コリア大統領は米州ポリバル代替構想加盟国に対し対外債務返済停止への措置に対する支持を求めた。同加盟国はエクアドルの対外債務に対する異議申し立てするとの決定を支持すると決議した。

コリア大統領は、グローバルシステムからの脱却、南米諸国の主権・自治の達成、新たな金融システム構築を目的とした、地域開発銀行(Banco de Desarrollo Regional)及び、国際準備基金(Fondo de reservas Internacionales)の創設を提起した。また、ドル撤廃を可能とする新地域通貨「スクレ(Sucre)」発行につき協議された。

(2) アンデス共同体(CAN)

11日、ベルギー共和国ブリュッセルに於いて、アンデス共同体は欧州連合と協議を行った。当国及びボリビアは右協議への出席を拒否し、コロンビア及びペルーは単独で欧州連合との経済連携協定に関する二国間交渉を行った。ベニータ欧州連合委員は、「アンデス共同体とのブロック交渉は実現性がない。欧州連合は二国間交渉を優先する」との見解を示した。

12日、サルバドル外務大臣は、「アンデス共同体での合意は得られないものとし、当国政府は一ヶ月以内に欧州連合との経済連携協定案を作成し二国間交渉に入ると決定した。同協定案は自由貿易協定(TLC)とは異なる形態となる」と言及した。当国政府は早急なる欧州連合との経済連携協定締結への意欲を見せた。

15日、コリア大統領は「コロンビア及びペルー両国は、当国の提案(欧州連合とのブロック交渉)を拒絶した。一方で両国は米国と自由貿易協定を締結し、欧州連合との二国間交渉を進めている。(アンデス共同体の)調和を壊し非常に残念である」と表明した。また、同大統領は「当国政府は欧州連合との自由貿易協定締結には全く関心がない」との見解を示し、12日の外務大臣発言を否定した。

(3) アジア太平洋経済協力(APEC)

22日及び23日、ペルーに於いて太平洋沿岸諸国21ヶ国のフォーラムであるAPECが開催

された。当国は APEC メンバー国ではないので同会議に出席していない。当国政府は長年、APEC 加盟に向け申請を続けているものの、未だ APEC 加盟を認められていない。

コリア大統領は、当国の将来にとって対アジア貿易の重要性も同時に認識しているものの、APEC の経済的理念には当国政府のそれと相違があり、APEC への加盟には否定的である。

(4) 対米国関係

コリア大統領がオバマ米国次期大統領に対し祝意を表明するために5日付書簡を送付した。同書簡には「エクアドル政府及びエクアドル国民の名の下、今晚の大統領選挙における貴大統領の意義深い勝利に祝意を表明する。この勝利は、とりわけこのような大きな挑戦の時期に際し、米国国民が国内及び世界における変化の必要性及び希望を体現する新たなリーダーを支持する意思を持っているということを確認するものである。」と明記されている。

24日サルバドル外務大臣が米国と二国間協議を行った。二国間外交強化を目的とし、人間開発及び貧困削減、通商・投資促進、技術協力、移民のテーマにつき話し合われた。

(5) 対ロシア関係

26日及び27日、ラヴロフ(Sergey Lavrov)露外務大臣は当国を公式訪問した。

27日、コリア大統領と会談を行い、同外務大臣は、ロシアが特に貿易・文化分野に於けるエクアドルとの関係強化に大きな関心を有しており、エクアドルに於ける石油、ガス及び原子力分野のプロジェクトを実施することに関心を有しているロシア企業が存在する、また、ロシアはエクアドルを、ブラジル、アルゼンチン及びベネズエラ同様、重要な貿易パートナーと見なしていると述べた。同日、サルバドル外務大臣とも会談を行い「共同声明」を発表した。

(6) 対ブラジル関係

21日、ブラジル政府は駐エクアドル ポルト(Antonino Marques Porto)伯大使との協議のため召還した。上記召還措置は、コリア政権がブラジル開発銀行(BNDES)の債務を償還しない旨脅す発言を行ったこと、及び同債務支払停止のためパリに所在する国際商工会議所(CCI)国際仲裁裁判所に調停を求めた後に行われたものである。

アモリン(Celso Amorim)伯外務大臣は「伯政府はエクアドル政府が本件を何の相談も通報もなく国際仲裁裁判所の調停に付すとの決定に懸念を強めている。ルーラ政権はエクアドル政府に対し厳しい政策をとらざるを得ない。駐エクアドル 伯大使を召還したのは、エクアドルが友好国間の関係にそぐわない行為をした場合の当然措置であり、ブラジルはエクアドルに対する経済協力を広く見直す」との見解を示した。

(7) 対イスラエル関係

18日～19日、サルバドル外務大臣は、リヴニ(Tzipi Livini)イスラエル外務大臣の招待を受け、イスラエルを公式訪問した。エクアドル外相のイスラエル訪問は22年振りで2度目のことである。今次訪問の目的は、両国間の伝統的友好関係を確認するためであった。両外務大臣は、二国間関係の重要テーマについて協議し、二国間、多国間及び国際テーマにおける両国の関心事項につき意見交換を行った。両国関係を発展・強化させるため、「エクアドル外務省・イスラエル外務省間の二国間諮問確立覚書」に署名した。

(8) 対イラン関係

27日、コリア大統領は、Majid Salehi 在エクアドル・イラン通商事務所代表と会談を行った。来る12月初頭に予定されているコリア大統領のイラン訪問に先駆け、両者は二国間関心テーマにつき協議した。上記会談には、サルバドル外務大臣も同席した。

(9) 対インド関係

16日、サルバドル外務大臣はインドを公式訪問した。ムカジー印外務大臣と会談を行い、国際的テーマ及び地域的テーマにつき協議された、両外務大臣は世界的金融システムの改革の必要性及び南部の国々の協力強化の必要性につき同意した。

※以上は、当地新聞情報をとりとめたものです。